

九重山の火山活動解説資料（平成 21 年 10 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 2）

噴煙の高さは概ね 100m（最高高度は 500m）で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 4）

火山性地震の月回数は 13 回（9 月：32 回）と少ない状態で経過しました。震源は星生山付近の浅いところに分布し、これまでと比べて変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした（9 月：なし）。

・地殻変動の状況（図 1、図 3）

GPS 連続観測では、長者原－牧ノ戸峠及び長者原－坊ガツルの基線に、1995 年から 1996 年にかけての噴火後の火山ガスの放出に伴うと考えられる長期的な縮みの傾向がみられていましたが、2008 年以降鈍化しています。

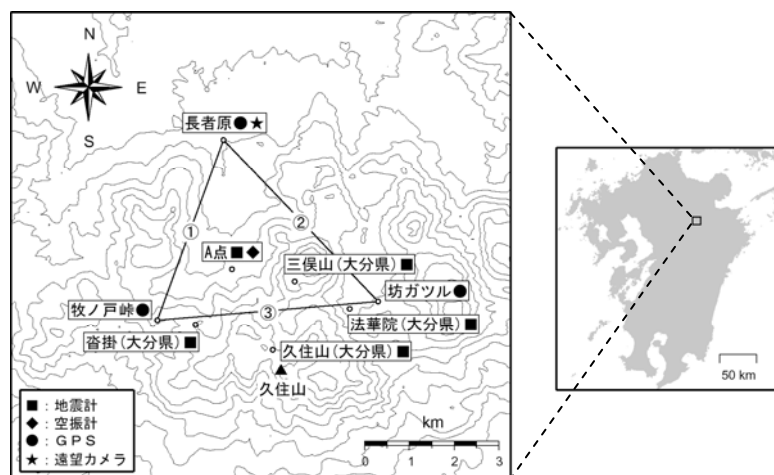


図 1 九重山 観測点配置図

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 11 月分）は平成 21 年 12 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

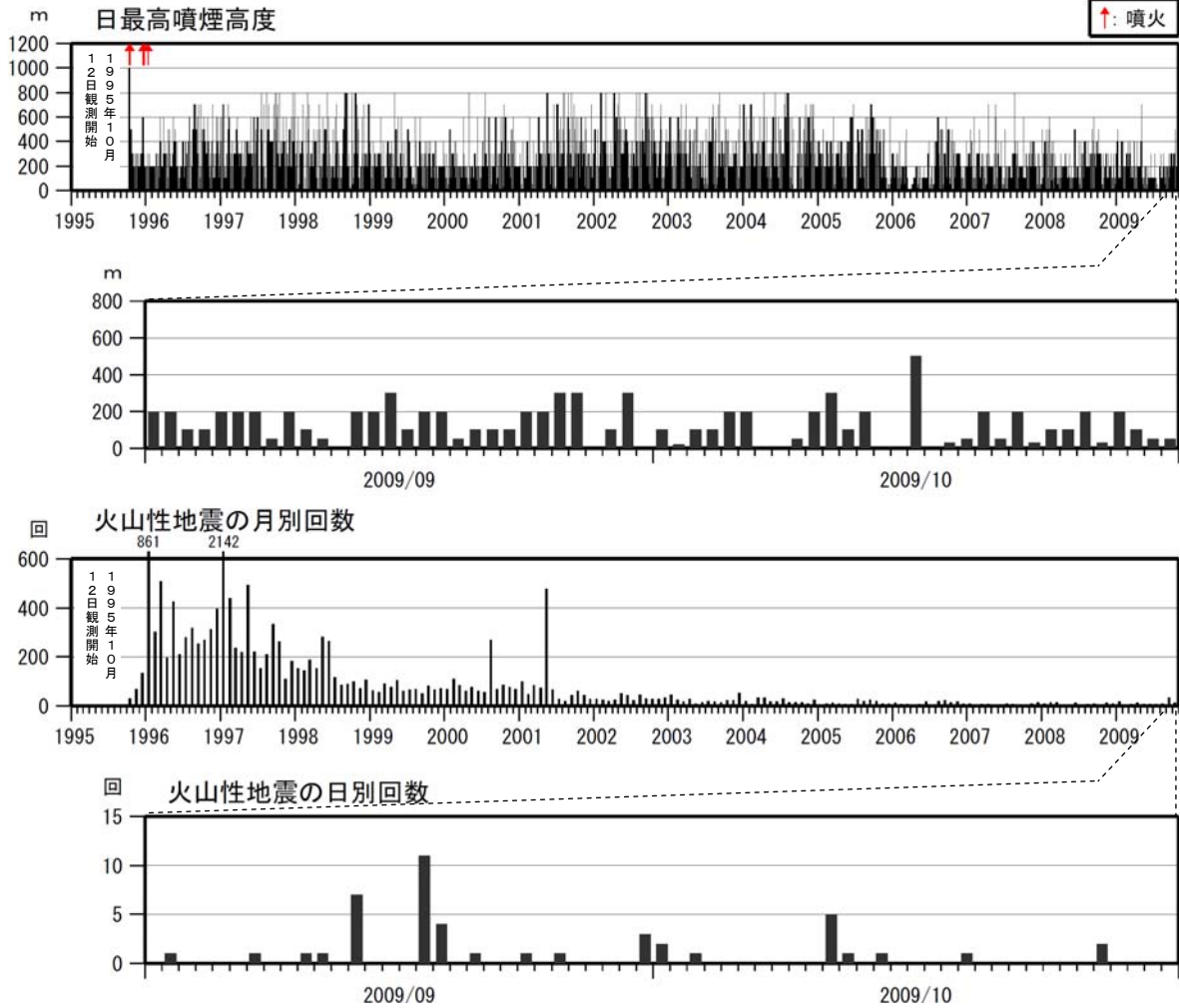


図 2 九重山 火山活動経過図（1995 年 10 月～2009 年 10 月）

<10 月の活動状況>

- ・噴煙の高さは 100～200m（最高高度は 500m）で経過しました。
- ・火山性地震の月回数は 13 回（9 月：32 回）と少ない状態で経過しました。

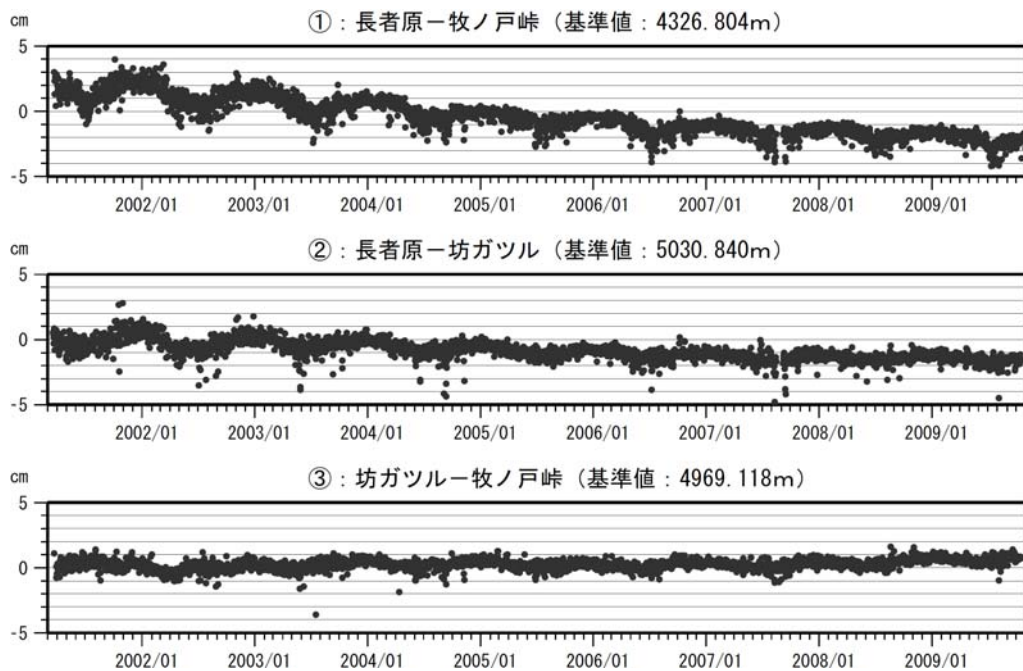


図 3 九重山 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 3 月～2009 年 10 月）

長者原-牧ノ戸峠及び長者原-坊ガツルの基線に、1995 年から 1996 年にかけての噴火の後の火山ガスの放出に伴うと考えられる長期的な縮みの傾向がみられていましたが、2008 年以降鈍化しています。

この基線は図 1 の①～③に対応しています。

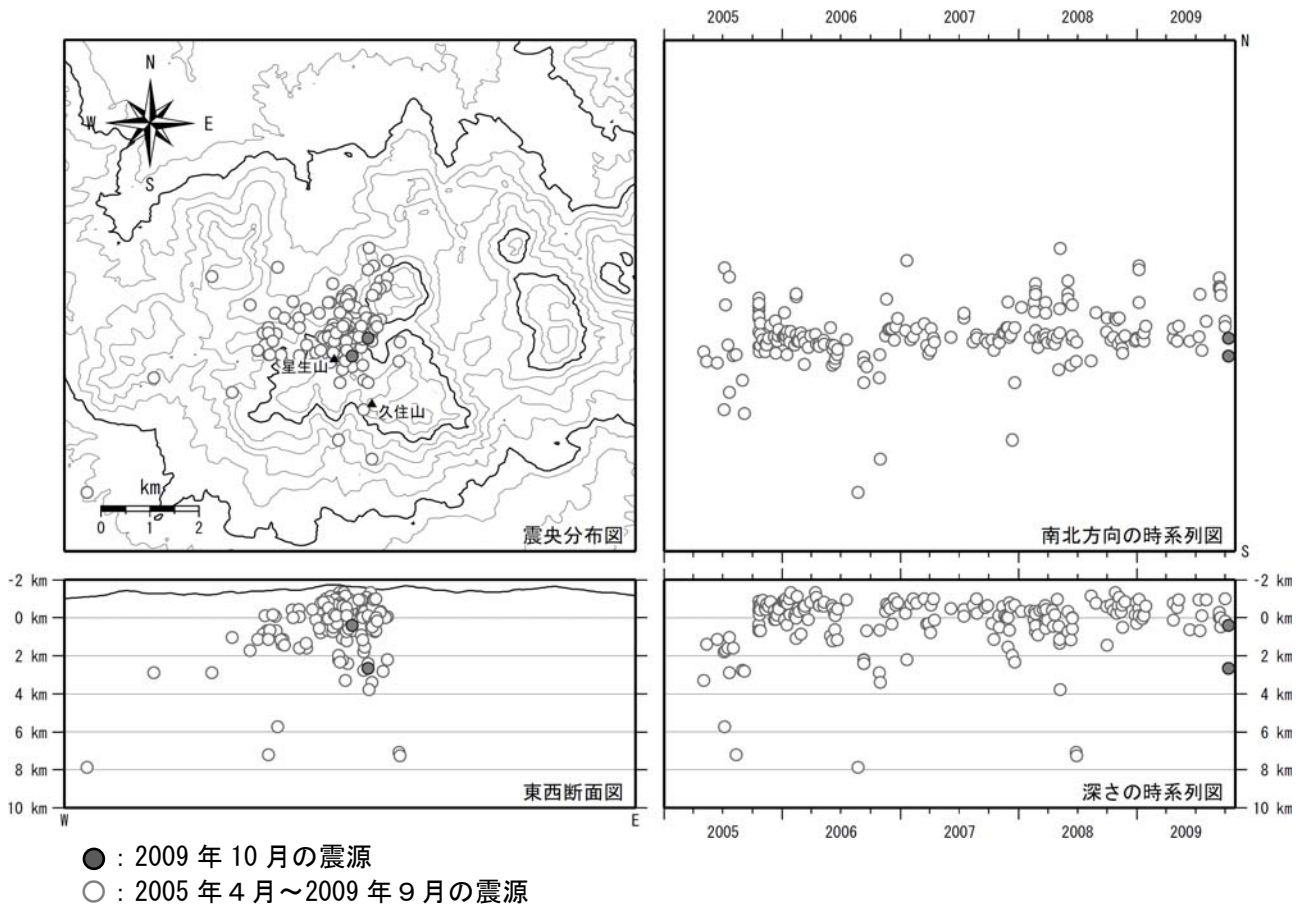


図 4※ 九重山 震源分布図（2005 年 4 月～2009 年 10 月）

<10 月の活動状況>

火山性地震の震源はこれまでと同様、星生山付近の浅いところに分布しました。